



野田小だより

学校教育目標

活力にあふれた学校

●が ン ば る 子

●や さ し い 子

●学 び つ づ け る 子



危険予知

平成29年12月1日

校長 小林 達哉

校庭の紅葉、黄葉した木の葉や外階段前のケヤキの葉が、日に日にその数を減らしています。先日、正門での登校指導終了後、玄関に戻る最中に、登校してきた2年生の男の子と一緒に、風に揺られて落ちてくるケヤキの葉をつかまえようと二人で、はしゃいでしまいました。子どもの無邪気で純粋な気持ちと、冬の訪れを感じる楽しいひと時でした。私も50年前は…。



さて、先月20日(月)防犯ボランティア連絡会議が行われました。初めに各学年の授業を見学していただき、その後、協議・情報交換を行い、最後に1年生と2年生の教室に分かれて子ども達が出したペンダントとお礼の言葉と手紙をお渡しし、給食を召し上がっていただきました。その協議の中で出てきた話題の一つに、子ども達の危険予知能力を育てていきたい、というものがありません。各自での下校時や帰宅後の行動時に、自分の命を自分で守るために、ここで安全確認をしないと車にひかれてしまうかもしれない、ここで立ち止まって待たないとあの自転車とぶつかってしまうかもしれない、などの危険を予知する力、つまり「危険予知能力」を普段から身に付けさせることが大切だということです。危険な場面は様々で、学校の安全教育だけでは、決して十分とは言えません。ぜひ、各ご家庭におかれましても折に触れて、それぞれの場面での危険が起こることを想定したご指導をしていただきますようお願いいたします。

また、危険予知能力や先を予想する能力が身に付くことにより、有効なのは、交通事故回避に限ったことではありません。けがの防止、不審者遭遇や犯罪の未然防止、人とのトラブル回避などにも十分役立つと思います。

学校でも保護者や地域の皆様と連携しながら、今後も子ども達の危険予知能力を育ててまいりたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。